



景真之近附屋阪松路小廣野与シハ襲=火猛+震激

(報畫災震大部帝)



大正十二年九月一日午前十一時五十八分關東地方赤倉有の大震災起り地は龜裂を呈し家屋は倒壊し東京市内八十餘箇所より火災起り一面火の海と化し水道も断水し風勢強烈にして消防に衝き損傷甚しき者觀分亦甚し子實は夫を以て道傍之人を以て埋むる地場も亦其時秋日の當り予誌大空屋三十六万余戸死者十萬行方不明者廿三萬餘傷四十万と算するも殊に避難者多し安全地を逃れざるも各處望遠鏡社能く其多數を廣く避難せしむる無数の被燒者痛みの極上極上と持てる時空火は鳥巢傳者及出らざるも甚大なる場所あり

大正十二年九月十五日印刷
發行所 公所
東京市豊島區豊島町二丁目
浦野銀次郎
電話二四九二番
電話四〇〇〇番

